

# 愛泉会 セミナー

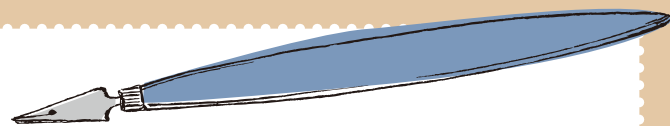
コロナウイルスの影響で、予定していた研修や視察の多くが中止となってしまいました。そのかわりにオンライン研修会が主流となり、また事業所内での学習会にも力を入れました。

## 実践研修発表会

### 「学校等との連携について」 ～子どもの今と将来を共有するために～

「学校連携」実はこの言葉は使われて久しいです。学校側から使われる場合と福祉側から使う場合もあり学校要覧や施設要覧にも記載されている言葉です。

この「連携」が言われた十数年前と現在の状況は、あまり進んで無いように感じます。逆にそれぞれの領域での支援や業務の困難さが前面に出て、連携はどんどん形骸化しているように感じます。特に児童福祉サイドの態様の変化は著しく、福祉という視点から経営という視点に移り、他の機関連携より自身の事業所の安定運営にだけ注力されるようになりました。当然、学校連携や家族支援など、直接売り上げに繋がらない領域への意識は薄くなっていったと思われます。月のひかりでも、子どもたちの成長過程での課題や問題行動を考えた時、以前は、家族や学校から聞いた断片



情報のみで、ほとんどは事業所内での対応に終始していました。当然、課題の本質を見抜けず支援の質は上がらない状況でした。

「放課後等デイサービスガイドライン」には、「放課後デイの内容(塾、音楽、スポーツ等)が多様であっても、障がいのある子どもの健全な育成を図るという支援の根幹は共通して、提供する事業所が支援の質の向上のために留意すべき点も共通のはずである。」とあります。大切な領域連携はどのような事業態や支援内容の放課後デイでも普遍だと示しています。今年度議論されている「障害児通所支援の在り方検討会」では、このガイドラインを制度化し、取り組みの強化をはかる方向性が出される予定です。

月のひかりでは、「学校連携」を年間の目標として、一人の子どもの成長を、関係する機関が集まり課題や情報を共有していく機会を積極的に作っていきたくと考えています。

[月のひかり 所長 村上実]



## 『東北フォーラム2021 in やまがた』の運営に参加して

令和3年11月1日・2日「東北フォーラム・2021 in やまがた」が開催されました。

東北フォーラムとは、東北地区知的障害者福祉協会職員研修として、福祉の仕事の「喜び・やりがい・誇り」を共有・共感し発信することをコンセプトに、「支援者による支援者のための全く新しい研修」として平成27年からスタートしました。しかし、令和2年度山形県開催予定であった東北フォーラムは新型コロナウイルス感染拡大に伴い延期となり、6県の実行委員は難しい課題を抱えることになりました。そして、令和3年度第1回実行委員会で「コロナ禍の今こそ、福祉の現場で働く支援者となつたり、それぞれの想いの発信・実現の



場が必要なのではないか」という考えのもと、オンラインと集合型の研修を同時に行う新しい研修を開催することを決め、実現に向け会議を重ね、研修の企画立案、準備を進め、山形テルサを会場とした研修会を開催しました。

私たちは山形県運営スタッフとして参加させていただきました。経験のない研修の形に戸惑い、不安を感じていましたが、会場とオンラインの皆さんが一体感を感じている瞬間に立ち会えたことが嬉しく、想いを共有・発信する研修を実現できたと実感しました。新型コロナウイルス感染症により、私たちの仕事・生活は一変しましたが、このような状況にあってもこの仕事の喜び・やりがい・誇りは変わらないと東北フォーラムを通じて証明できたと考えます。この経験を今後の仕事に活かし、利用者、ご家族、地域社会…私たち支援者自身の幸せ・想いの実現のために励んでまいります。

[斎藤 徳・武田 歩・高橋 共生・深瀬 和美]



## 愛泉会の各委員会より

### 愛泉会衛生委員会について

昨年度、事業所の所在によりエリアを南北に分け、職員代表を含む各6名の委員を選任し、計12名により組織された愛泉会衛生委員会が発足しました。

労働安全衛生法上の設置義務はありませんが、大小20を超える様々な事業所、幅広い年齢層で構成された総勢250名余りの職員群、送迎や支援等により毎日40台以上の公用車が稼働している当法人にあっては、至る所に労働災害の芽が潜んでいます。

また、チームワークによる対人サービスを主とした業種であることに加え、昨今のコロナ禍の中での

業務は職員の精神的負担をより大きくし、ともすればメンタルの不調に繋がりがねません。委員会活動は端緒に就いたばかりですが、「愛泉会で働く全ての職員が安全で、安心して、心身ともに健康で働き続けられる職場づくり」をスローガンに掲げ、労働災害防止や職場環境改善への取り組み、職員の健康管理やメンタルヘルス対策等の充実を図るために、今後一層活発化させていきたいと考えています。

[事務局長 豊田 裕一]

## 日々是好日

愛泉会で働いて..

愛泉会で働いている職員をリレー形式でつないでいき、日々感じている事、思っている事を語っていただきます。

デイサポート  
たんぼぼ工房  
支援員

鈴木 蘭



たんぼぼ工房で働き始めて5ヶ月が経ちました。福祉の仕事に携わることが初めての私は、利用者様と過ごす毎日に、驚きや困惑する反面、多くの楽しさや喜びもあります。時々、自分ができない、分からないことに落ち込むこともありますが、所長が「蘭さんは大事な職員だ」と言ってくださった言葉が支えとなっています。

今は、利用者様の支援や日々の業務を1つひとつ行っていくことに精一杯で余裕がなく、支援や業務の意味、繋がりがまだよく理解できず、1つひとつの点でしかありません。もっともっと利用者様のことを知り、先輩方からのご指導をいただきながら、点が繋がりに線となり、それが面となってより良い支援ができるよう頑張ります。

地域生活支援センター  
天花  
相談支援専門員

庄司 恵美子



「緊張するなあ〜。どんな人に会えるのかな?」初めて利用者さんとお会いする時は、いつもドキドキした気持ちになります。話をするなかで「どこに相談したら良いか?」と分からず、これまでに頑張り利用者さんにも不安があるなか勇気を出して話してくれたのだと感じます。また、会う回数を重ねると、障がいや課題だけではなく「その人」の魅力や思いに気づくこともできます。

相談支援事業所で勤務をして半年。さまざまな人と出会い、その人の希望実現のためにお手伝いできるこの仕事に楽しさとやりがいを感じています。これからも初心を忘れず、そして無理せずにスキルアップしていきたいと思っています。

グループホーム  
支援センターみらい  
支援員

森谷 玲奈



昨年度4月に入社し、今年度で2年目になりました。利用者の方を見て、どんな性格、特性を持っているか等を考え、その方にあった支援が出来るように努めています。1年目は仕事内容を覚える事に必死で、利用者の方ともうまくいわずに悩んでいた時もありました。再度支援内容を見直し、なぜこの支援が必要か、どんな意図で行っているかを考え直し、不安、疑問点があった際は先輩職員に相談し、アドバイスを頂きながら支援にあたっています。

今では、利用者の方から近寄ってきてくださり、コミュニケーションをとることも多くなりました。

利用者の方にとって、安心して過ごすことが出来るホーム作りを今後も行ってきたいと思っています。